

記入上の注意

- 1. 該当する文字については、その項目(頭に数字があるときは、その数字のみとする)を○で囲むこと。
2. ※印欄は、記入しないこと。
3. この申請書の公費負担の承認開始日は、保健所が申請を受理した日(郵送の場合消印日)となりますので、ご注意ください。

感染症患者(結核・通院*)医療費公費負担申請書(法第37条の2)

年 月 日

(*入院勧告によらない入院患者の結核医療費を含む)

大阪府知事・市長様

(大阪市・堺市・高槻市・東大阪市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市は各市長に申請のこと。)

申請者の氏名

(保護者の個人番号)

個人番号欄

※申請者が保護者場合のみ記載

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第37条の2の規定により、医療費公費負担を申請します。

申請者の住所

患者との関係

TEL

患者の氏名、性別、生年月日、住所、被保険者の別、添付X線写真の枚数、CT所見に関する注釈

診断書

病名、化学療法、外科療法、合併症歴、現病歴、現症、ツ反、特にLTBI治療の場合

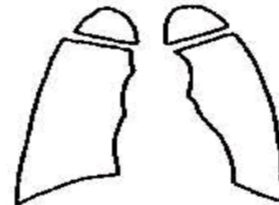


Table with 4 main columns: 結核菌検査, 診断時の核酸増幅同定検査, 培養後の抗酸菌同定検査, 薬剤感受性検査成績

今後の医療方針 (初回治療例では2クール(1年)、再治療例では3クール(1年半)を超えて継続する場合は、その理由及びその他の意見を記入すること。)

医療機関の所在地、名称、TEL、医師の氏名、※病型

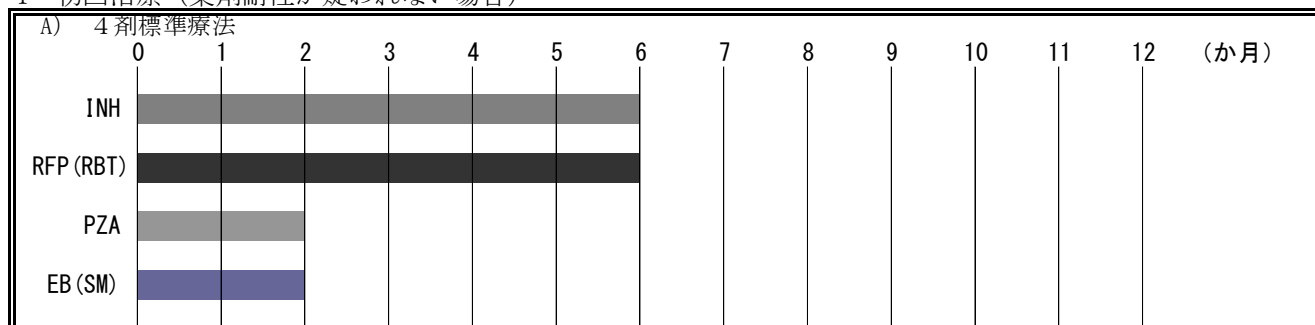
受理年月日、受理番号、登録票番号、郵送・持参、37条の2、判定、承認・不承認

法第37条の2に基づく公費負担の承認開始日は、保健所が申請を受理した日(郵送の場合は消印日)となりますので、ご注意ください。

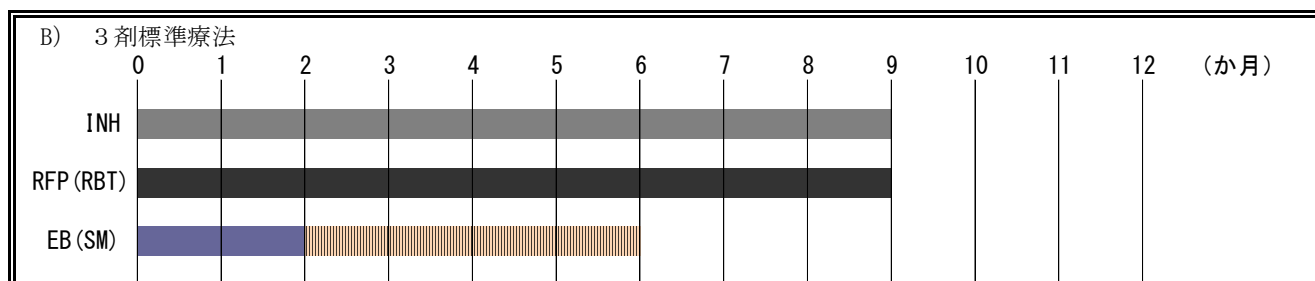
結核医療の基準 (R3年10月改正)

I 肺結核の化学療法

1 初回治療 (薬剤耐性が疑われない場合)



- A) PZA使用不可の場合を除き、原則として、全症例について4剤治療の化学療法を行う。
- INH、RFP(又はRBT)、PZA、EB(又はSM) 4剤併用療法を2か月行い、その後INH及びRFP(又はRBT)を4剤併用療法開始時から6か月(180日)を経過するまで行う。



- B) PZA使用不可の症例に限っては、3剤治療の化学療法を行う。
- INH、RFP(又はRBT)、EB(又はSM) 3剤併用療法を2か月ないし6か月行い、その後INH、RFP(又はRBT)を3剤併用療法開始時から9か月(270日)を経過するまで行う。

留意事項

- 結核菌培養検査が陰性である等の薬剤感受性検査の結果を得ることができないと判明した場合については、初回治療で薬剤耐性結核患者であることが疑われない場合にあつては上記のA)、B)に掲げるとおりとし、初回治療又は再治療で、患者の従前の化学療法歴、薬剤耐性結核患者との接触歴等から薬剤耐性結核患者である可能性が高いと考えられる場合にあつては薬剤感受性結核患者である可能性及び薬剤耐性結核患者である可能性のいずれも考慮して、使用する抗結核薬を決定する。
- 次の場合は、患者の病状及び経過を考慮して3か月間延長できる。

- ア 治療開始時に症状が著しく重い場合
- イ 治療開始時から2か月を経ても結核菌培養検査の成績が陰転しない場合
- ウ 糖尿病、じん肺、HIV感染等の結核の経過に影響を及ぼす疾患を合併する場合
- エ 副腎皮質ホルモン剤若しくは免疫抑制剤を長期にわたり使用している場合
- オ 再治療の場合

抗結核薬の種類

INH	イソニアジド
RFP	リファンピシン
RBT	リファブチン
PZA	ピラジナミド
SM	硫酸ストレプトマイシン
EB	エタンブトール
LVFX	レボフロキサシン
KM	硫酸カナマイシン
TH	エチオナミド
EVM	硫酸エンビオマイシン
PAS	パラミノサルチル酸
CS	サイクロセリン
DLM	デラマニド
BDQ	ベダキリン

2 INH、RFPが使用不可の場合

	RFPが使用できてINHが使用できない場合	INHが使用できてRFPが使用できない場合	INHとRFPの両方が使用できない場合
PZAが使用できる場合	①培養(-)から6か月 ②治療開始から9か月 ※①②の長い方	培養(-)から18か月	培養(-)から18か月 ※感受性のある薬剤が3剤以上使用可能な場合
PZAが使用できない場合	①培養(-)から9か月 ②治療開始から12か月 ※①②の長い方		

II 肺外結核の化学療法

肺結核の治療に準じて化学療法を行うが、結核性膿胸、粟粒結核若しくは骨関節結核等の場合又は結核性髄膜炎等中枢神経症状がある場合には、治療期間の延長を個別に検討する。

III 潜在性結核感染症 (LTBI) の化学療法

原則として次の(1)又は(2)に掲げるとおりとする。ただし、INHが使用できない場合又はINHの副作用が予想される場合は、RFP単独療法を4か月間行う。

- INHの単独療法を6か月間行い、必要に応じてさらに3か月間行う。
- INH及びRFPの2剤併用療法を3か月又は4か月間行う。